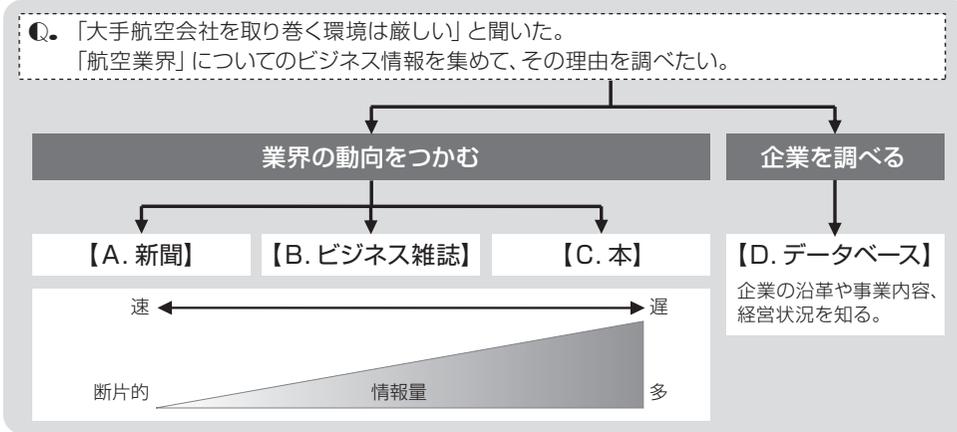


6 ビジネス情報の探し方

◆ 概要

ビジネス情報には、経済や業界の情報、企業情報などがあります。就活にも活用しよう！



A. 新聞

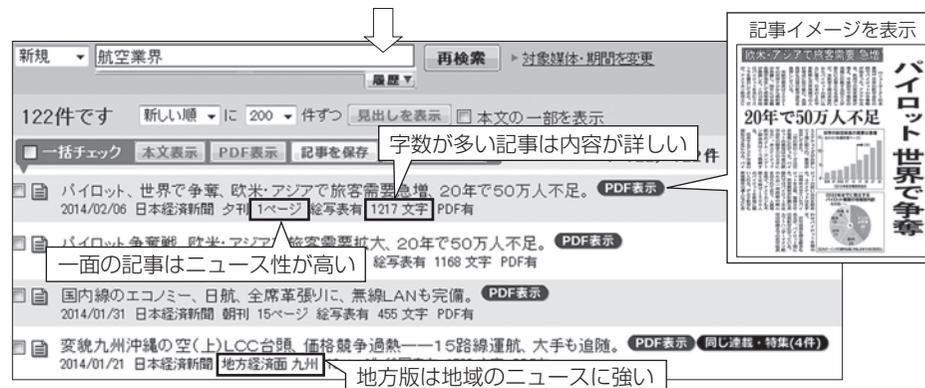
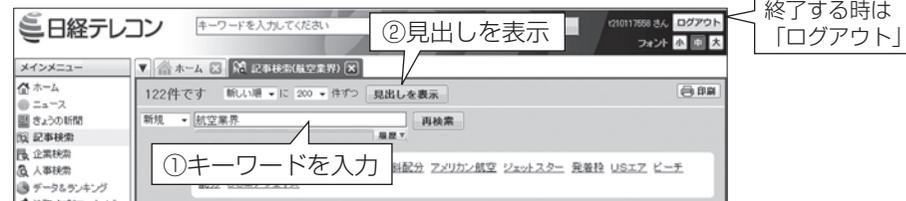
新聞原紙やデータベースで、幅広く情報を集めることができます。 →P17も参照

1) 『日経テレコン』-「記事検索」で新聞記事を探す

『日経テレコン』-「記事検索」
日本経済新聞社が発行する新聞（1981年から今日まで）の新聞記事を検索できるデータベース。

アクセス 図書館ホームページ> 情報検索データベース >「新聞」> 日経テレコン

検索画面 キーワードを入力し、見出しを表示



B. ビジネス雑誌

『CiNii Articles』などの雑誌記事データベースで、特集記事などを探そう! →P13

◆主なビジネス雑誌



◆ビジネス雑誌が読めるデータベース

アクセス 図書館ホームページ> 情報検索データベース

『日経ビジネス』など日経 BP 社発行の雑誌	バックナンバー・ライブラリ 日経BP記事検索サービス
『週刊東洋経済』、海外のビジネス雑誌	FACTIVA
『週刊エコノミスト』	JapanKnowledge Lib

C. 本

『OPAC (蔵書検索システム)』で「業界名」や「企業名」をキーワードに検索。 →P3

◆業界地図



◆業界本、企業研究本



6 ビジネス情報の探し方

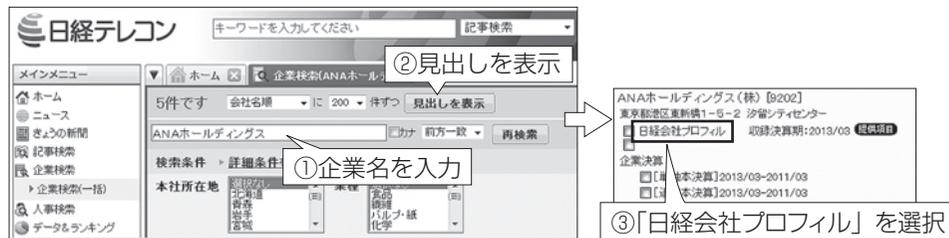
D. 企業情報データベース

1) 『日経テレコン』-「企業検索」で企業情報を探す

「日経テレコン」-「企業検索」
日本国内の企業情報を検索できるデータベース。事業内容や業績推移、関連企業情報を確認できる。

アクセス 図書館ホームページ > 情報検索データベース > 「経済・ビジネス」 > 日経テレコン

検索画面 企業名を入力、見出しを表示し、「日経会社プロフィール」を選択



企業情報画面 企業の事業内容や業績推移、関連会社情報などを確認

サンプル画面

基礎情報、沿革

事業内容

財務諸表
資産と負債のバランスを確認

業績推移
過去5年間の業績

【連結】
=グループ全体
(子会社を含む)

関係会社
子会社や出資企業など

同業他社と比較すると、
企業の特徴が見える!

会社名	ANAホールディングス(株)	会社名(英)	ANA Holding Inc.
資本金	918,760(百万円)	売上高	1,293,806(百万円)
決算日	3月	従業員数	12,721名
代表者	伊東 信一郎	【日経ID:9202】	【所属記事】

科目	2012年3月	2013年3月
流動資産	548,718	717,700
固定資産	1,453,675	1,417,874
純資産	176	1,598
資産合計	2,002,370	2,137,242

科目	2009年3月	2010年3月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	日経予想
売上高/営業収益	1,362,591	1,229,353	1,257,653	1,411,504	1,483,581	1,520,000
経常利益	31	-46,303	37,022	68,455	76,965	30,000
当期利益	-4,292	-57,387	23,325	28,178	431,462	15,000

会社名	住所	議決権保有割合(%)	関係有割合(%)
Peach Aviation	大阪府泉佐野市	38.7	
スターフライヤー	福岡県北九州市	18.0	
ゼンレアGSEサービス	愛知県津島市	25	
CREW RESOURCES WORLDWIDE, L.L.C.	HONOLULU, HAWAII, U.S.A.	1	
ATIS航空サービス	徳島県徳島市	2	
東亜ANAラベルオンライン	東京都品川区	50.0	0.0

2) 『eol: 総合企業情報データベース』で企業情報を探す

『eol: 総合企業情報データベース』
事実をありのまま報告することが義務づけられた「有価証券報告書」を検索できるデータベース。

アクセス 図書館ホームページ > 情報検索データベース > 「経済・ビジネス」 > eol

企業情報画面

有価証券報告書の主な内容

- 企業の概況
 - ・沿革
 - ・事業の内容
 - ・関係会社の状況
 - ・従業員の状況 など
- 事業の状況
 - ・業績等の概要
 - ・対処すべき課題
 - ・事業等のリスク
 - ・研究開発活動 など
- 設備の状況
- 提出会社の状況
 - ・株式等の状況
 - ・役員等の状況 など
- 経理の状況

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度(平成25年4月1日～平成26年3月31日、以下、「当期」という)のわが国経済は、個人消費の増加や企業収益の改善、設備投資の持ち直しがあるなかで、景気は緩やかに回復した。先行きについては、当面、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により弱さが残るものの、次第にその影響が薄れ、各種政策の効果が現れるなかで、緩やかに回復していくことが期待されている。

このような経済情勢の下、「2014～15年度ANAグループ中期経営戦略」で掲げている持株会社への移行を契機としてグループ経営体制の強化に努めた。コスト削減改革については、外部環境の変化を踏まえて抜本的見直しを行い、目標の達成に向けて進捗している。また、アジア航空市場の拡大を、航空に関連する事業のビジネスチャンスと捉え、引き続き戦略的投資を推進する。

以上の結果、当期における連結業績は、売上高は1兆8,188億円(増8.2%増)となった。

【業績等の概要】

企業を取り巻く市場環境
1年間の取り組みや成果

【対処すべき課題】
現在抱えている課題
目標や経営戦略

3【対処すべき課題】

(1)経営の基本方針

当社グループは、グループの使命・存在意義である経営理念として「安心と信頼を基盤に世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します」を掲げている。数あるエアライングループのなかで、お客様に選ばれ、世界の航空業界をリードする確固たる地位を築くことを目指し、グループ経営ビジョンとして「ANAグループは、お客様満足と価値創造で世界のリーディングエアライングループを目指します」と定めている。

(2)中長期的な会社の経営戦略

航空業界は、企業の業績改善、訪日外国人の増加、アジアの経済成長等を背景として、首都圏をはじめとする航空需要の拡大が見込まれる一方で、既存のエアライン、新規参入と事業規模拡大をはかるLCC、新幹線の延伸等による他交通機関との競争が激化しており、厳しい環境下におかれている。

このような中で、今後想定される航空業界の激しい競争を勝ち抜き、更なる成長を実現するための指針として、「2014～16年度ANAグループ中期経営戦略」を取りまとめた。羽田空港国際線の発着枠拡大を契機として、日本及びアジアの成長を大きく取り込んでいくために最適な事業運営を行い収入を最大化するとともに、コスト削減改革を推進し、2016年度には連結営業利益1,800億円、連結営業利益率7%を目指す。更には、2016年東京オリンピック・パラリンピックに向けて動きはじめた、首都圏空港の機能強化等の取り組みの中で、将来の成長に向けた準備を進める。

その他の企業情報データベース

FACTIVA

国内外の企業情報を総合的に検索できるデータベース。
(海外情報は英語)

FinancialQUEST 2.0

国内の企業の財務、有価証券などのほか、マクロ経済、地域産業統計などの数値情報がダウンロードできる。